

建設業のカナイワ（金沢市）は、地下水を熱源に利用したヒートポンプ式の給湯・冷暖房システムで、使用済みの地下水を水道水の代わりに風呂やトイレで再利用できるシステムを新たに開発した。省エネ・節電効果の高い地下水利用ヒートポンプ設備は、東日本大震災後に注目が高まっている。新システムは水道代も節約できることから、病院や福祉施設へのアピールポイントにしていく。（大島康介）

熱源と水まわり 地下水2度利用

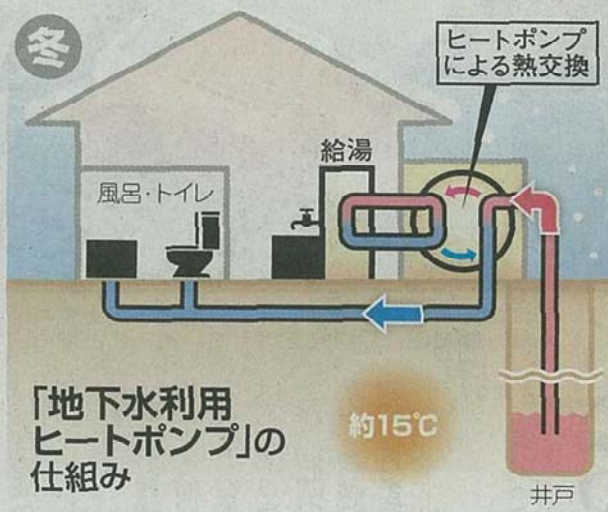
石川県小松市の老人福祉施設で四月、新システムの第一号工事が完成した。同様の設備は、北陸で施工例がないとみられる。ヒートポンプ給湯だけに地下水を活用し、水質処理をしたうえで風呂やトイレで再利用する。冷暖房はコスト面から見送った。

高省エネの新設備

に比べて給湯コストと水道代で年間計九百万円を節約できる見通し。計画通りなら、設備投資の費用を五年で回収できる。二酸化炭素（CO₂）も年間六十五ト（44%）を削減できる。

カナイワ 施設向けに開発

し、地下水利用ヒートポンプ設備の事業をスタートさせた。今回で施工実績は四件になる。医療機関や福祉施設、学校などへ営業をかけている。普輪崎暢管社長によ



地下水利用ヒートポンプ ヒートポンプは、給湯や冷暖房で熱交換の心臓部に当たる機器。通常は外気を使って熱交換するが、地下水利用タイプでは地下100mからくみ上げた年間通じて15度に保たれた水を使用。外気に比べて夏は冷たく冬は温かいため、ヒートポンプの負担が大幅に小さくなり、省エネにつながる。

平成23年6月14日北陸中日新聞に掲載されました。